



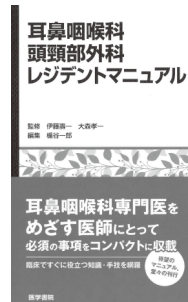
書
評

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 レジデントマニュアル

監修：伊藤壽一，大森孝一
編：楯谷一郎

B6 変型・頁 432 2016 年 定価：本体 4,800 円＋税
[ISBN978-4-260-02526-3] 医学書院刊

＜書評者＞ 香取幸夫（東北大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学教授）



耳鼻咽喉科の学会において京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科の先生方の発表を拝聴して常に羨望することの1つに、各症例の治療経過の記録が適切に要約されていることが挙げられる。耳疾患から頭頸部腫瘍に及ぶいずれの領域においても、病歴、初診時所見、診断、保存的治療、手術といった一連の流れがとてもよく整理されているのである。その教室で行っている臨床指導（モーニングセミナー、イブニングセミナー）を凝集した本書を一読させていただき、なるほどこのようなセミナーを定期的に行い研修医や学生、メディカルスタッフをご指導されているのか、と感銘に及んでいる。

内容に少し触れてみたい。本書は全8章と付録から構成され、最初の2章は診察の総論である。第1章は「所見のとり方」で、耳、鼻、口腔、咽頭・喉頭、頸部の診察について簡明かつ十分に要約されており、学生のOSCEから専門医の一般診療のレベルまで対応できる内容である。第2章の「主訴からみた診察の流れ」では、耳症状、めまい・平衡障害、鼻症状、頸部腫脹といった16項目の訴えに対して、「まずやるべきこと」「診療の流れ」「想定される主な疾患」が順に整理されている。耳鼻咽喉科・頭頸部外科で扱う疾病の症状が遺漏なく順に述べられており、新患外来や救急で診察を進めるうえでとても参考になる。

第3～7章は、耳、鼻副鼻腔、口腔・咽頭、喉頭、頭

頸部の順に、「検査法」「疾患」「代表的な術式と周術期管理」がそれぞれ述べられている。コンパクトな体裁であるにもかかわらず、どの項目にも代表的な内視鏡、CT、MRIの画像所見やスキーム、図表が視認性よく挿入されていてわかりやすい。各々の章で検査、疾患、手術の項目が独立していることで、実際の診療の予習や確認に用いる際に探しやすいと感じる。第8章は、耳鼻咽喉科の治療のうち大きな比率を占める感染症に対する治療を独立して扱っている。特に、抗菌薬の選択や投与法について実践的な記載が多い。最後の18ページは付録に費やされており、頭頸部癌、甲状腺癌のTNM分類や各疾患に対するガイドライン・指針に加え、耳鼻咽喉科専門研修プログラムが紹介されている。耳鼻咽喉科・頭頸部外科のキャリアパスを提示し、重要であるが専攻医が減少傾向にあるこの領域に、多くの学生や初期臨床研修医を招こうとする意欲的な記載である。

全体を通して、本書は診療の予習に、また診療中に迷ったときにまず頼りになるコンパクトな教科書であり、自室や家で通読することでも効果的な勉強ができる1冊である。医師国家試験をはじめとする資格試験の対策にも有用と思う。京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科の学生・スタッフ教育のエッセンスが集約された素晴らしい書であり、これから臨床に望む多くの学生やレジデントに薦めたい。